

四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展

四国の風土と暮らし ー海と人々1 縄文～弥生時代ー

発掘へんろ展は四国の古代史や歴史を広く知ってもらうため、四国の埋蔵文化財センター5団体が合同で開く巡回展です。それぞれの地域の歩みを考古資料から探ります。

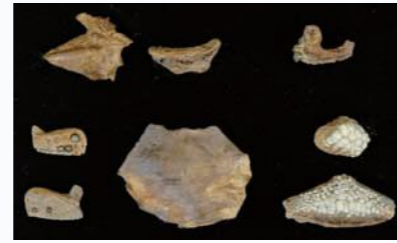


写真1 宮前川北斎院遺跡出土魚類 (愛媛県松山市) (公財) 愛媛県埋蔵文化財センター所蔵

今回の「海と人々」展の章立ては次の5つ。

- 海辺の遺跡…海辺でくらしの人々が使っていた土器や石器を紹介。
- 海の幸…海辺の貝塚やムラで見つかったマダイやスズキなどの魚類 (写真1) やハマグリなどの貝類を紹介。
- 海の道具…漁網で魚を捕まえる様子を描いた土器 (表紙の写真) や漁網の錘 (写真2) などを紹介。
- 調理の道具…ハマグリを使った魚の調理具や土器を使った海藻の蒸し器などを紹介。
- 飾る…海を隔てた地域から運ばれてきた美しい装身具 (写真3) を紹介。

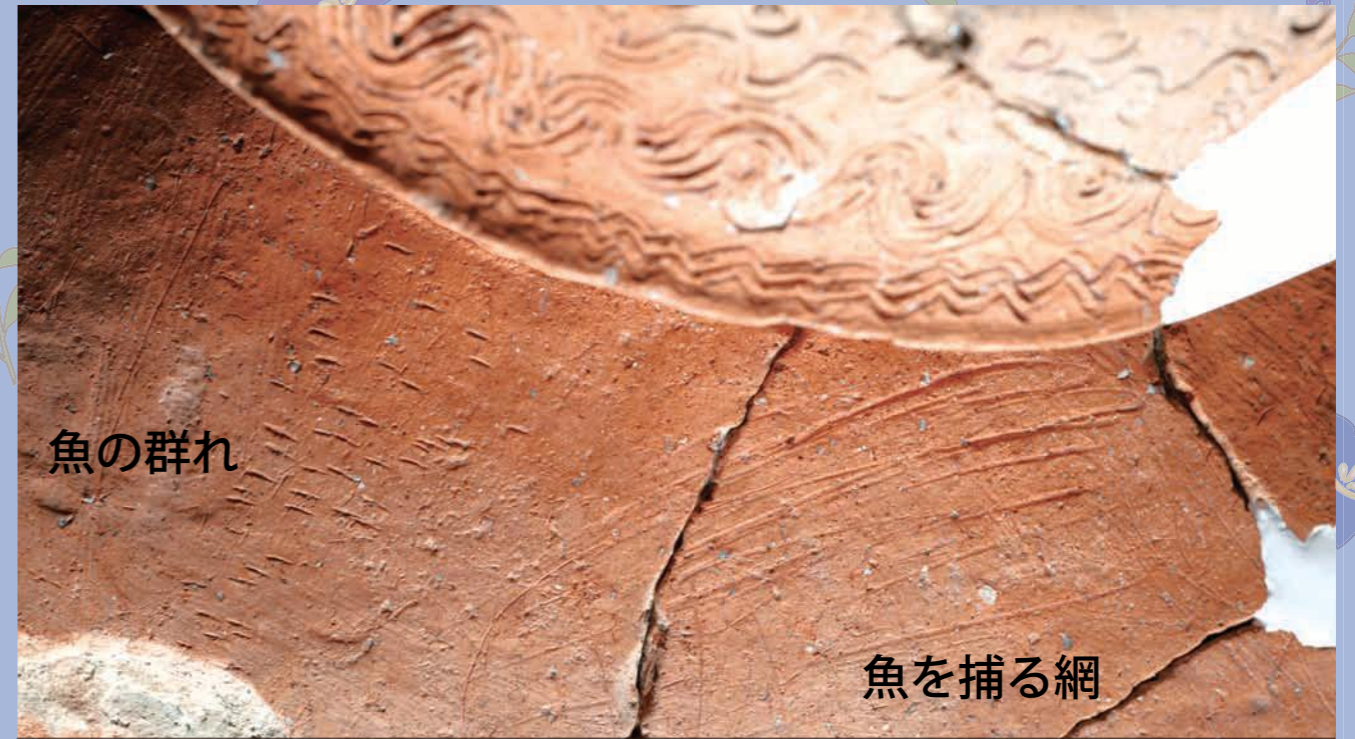


写真2 大浦浜遺跡・下川津遺跡の管状土錘 (香川県坂出市)

今回の展覧会を通して、縄文・弥生時代の人々が海で魚貝類などの海の幸を得るだけでなく、塩を作ったり、海を渡って遠くはなれた地域の人々と広く交流したりしていたこと、多くの恵みを与えてくれる海と人々がうまくつきあってきたくらしが四国の風土や歴史を築いてきたことに思いを馳せていただければ、幸いです。



写真3 旧練兵場遺跡のヒスイ製の勾玉 (香川県普通寺市)



魚の群れ

魚を捕る網

[テーマ1] 海外技術研修員ジェルソンのまいぶん探訪記



[テーマ2] 発掘へんろ展示「海と人々」のご紹介

(写真) 漁網で魚を捕まえる様子を描いた弥生土器 (朝倉下経田遺跡 愛媛県今治市) (公財) 愛媛県埋蔵文化財センター所蔵

展示のお知らせ

2019年度 四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展 四国の風土と暮らし ー海と人々1 縄文～弥生時代ー 高松市埋蔵文化財センター連携展示 鷺羽神社境内遺跡も開催中!

日時: 開催中。12月13日(金)まで 9時～17時 ※土・日・祝日は休館 (ただし11月9日(土)は開館) 場所: 香川県埋蔵文化財センター 第2展示室 観覧料: 無料



香川県埋蔵文化財センター <https://www.pref.kagawa.lg.jp/maibun/> 〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4 tel.0877-48-2191 fax.0877-48-3249



一部通行止があります 詳しくはホームページをご覧ください

いにしへの讃岐

海外技術研修員 ジェルソンのまいぶん探訪記 (9/3 ~ 9/30)

【僕のこと】

僕は、サンパウロ州タウバテ市に生まれ育ちました。日本語の勉強を始めたきっかけは、高校時代に日系人の友達ができただけです。多くの友達が日本と深いつながりがあったので、僕は自然と日本についてもっと知りたいと思うようになりました。あのころ、僕達は毎土曜日「タウバテ 日伯文化協会」というところに集合したり、イベントに参加したりしていて、特別な思い出がたくさんできました。そんな経験を重ねて、今回香川県の海外技術研修員として、初めて来日しました。

僕は将来、日本語教師になりたいと思っています。また、日本の教育システムやアイヌ民族に興味があります。ですから、日本の文化をもっと、詳しく習いたかったし、埋蔵文化財センターでの研修をとっても楽しみにしていました。



古墳時代の鐘をつけてみました



分銅形ペンダントをつけてみました



満濃池のほとりポーズ (まんのう町)

【研修で香川の歴史にふれました！】

研修初日は、施設を一通り案内してもらった後、弥生土器をテーマとした展示を見ました。僕は弥生時代について聞いたことがなかったので、香川県で 2000 年以上前という古い物が発見されたことがわかってびっくりしました。だから強く印象に残りました。また、後日には西岡所長と香川県内の文化財や資料館をめぐる予定です。満濃池、宗吉かわらの里展示館、詫間町民俗資料館、石の民俗資料館などを訪ね、数多くのことを知りました。特に詫間町民俗資料館では様々なワークショップに参加することができたので、本当に特別な経験になりました。



瓦をつくってみました
宗吉かわらの里展示館 (三豊市)



石工たちの石の切り出しジオラマを見ました
石の民俗資料館 (高松市)



七輪で火をおこしてみました
詫間町民俗資料館 (三豊市)



七輪で大豆を炒ってみました
詫間町民俗資料館 (三豊市)

【パンフレットを英訳しました！】

一番心に残ったのは、讃岐国府跡について解説したパンフレットの英訳です。これは僕にとって大きなチャレンジかつチャンスでした。なぜかといえば、僕は英語がとても得意だからです。ただ、文章には専門用語がたくさんあって、思っていたより時間がかかりました。また漢字にも挑戦できたので、英訳が完成したときには大興奮という感じでした。「本当にお疲れさま！！」という気分。

西岡所長をはじめ、埋蔵文化財センターの皆様、この一ヶ月お世話してくれて、ありがとうございました。



西岡所長 (右)・久保田さん (左) と
豊稔池でポーズ (観音寺市)

